

**第7回 (仮称)練馬区地域コミュニティ活性化プログラム検討懇談会  
議事概要**

**《日時・場所》**

- 1 平成 23 年 11 月 10 日 午後 6 時～午後 8 時
- 2 場所 練馬区役所本庁舎 5 階 庁議室

**《次第》**

- 1 開会
- 2 第 6 回懇談会の議事概要
- 3 議題  
( 1 ) 「( 素案 ) 練馬区における『地域の絆』を深める取組の方向性  
～ ( 仮称 ) 練馬区地域コミュニティ活性化プログラム策定に向けての提言～」
- 4 その他

**《出席者》**

大垣喜久江委員、岡田尚子委員、小川善昭委員、小美濃千鶴子委員、加藤政春委員、  
鈴木恭一郎委員、玉井弘子委員、玉野和志委員、田村哲明委員、原秀年委員、森本陽  
子委員

( 区出席者 ) 区民生活事業本部長、産業地域振興部長

( 事務局 ) 地域振興課職員 5 名

( 傍聴者 ) なし

## 1 開会

座長

- ・第7回地域コミュニティ活性化プログラム検討懇談会を開催する。

## 2 第6回懇談会の議事概要

座長

- ・事務局より、第6回懇談会議事概要について、事務局より確認をお願いする。

事務局

- ・第6回懇談会議事概要について、各委員には事前に送付させていただいた。現時点で修正などのご意見はいただいているが、加筆・修正等があればお出しいただきたい。
- ・何もなければ、今後、区のホームページで公開していく。

座長

- ・特に意見等がないので、第6回懇談会議事録については、区のホームページでも公開していく。

## 3 議題

(1) 「(素案)練馬区における『地域の絆』を深める取組の方向性

～(仮称)練馬区地域コミュニティ活性化プログラム策定に向けての提言～」

座長

- ・本日の懇談会は、最後の懇談会になるので宜しくお願いしたい。まずは事務局より資料について説明をお願いする。

事務局

- 資料1 「(素案)練馬区における『地域の絆』を深める取組の方向性 ～(仮称)練馬区地域コミュニティ活性化プログラム策定に向けての提言～」について説明

座長

- ・素案について概略を説明してもらった。本日は、素案を基に最終的な提言の中身についてご意見をいただきたい。素案は、第1章から3章まで大きく3つに分かれている。その中で不足していることや補足が必要なことなどについてご意見をいただきたい。
- ・第1章は、最初の頃の懇談会で議論した内容がまとまっている。そもそも活性化している状態とはどういった状態なのか、なぜ活性化が必要なのかという内容がまとまっている。
- ・前回の懇談会において、団体の活動を活発化することや、団体同士が連携することとは別に、地域活動へ参加する、参加しないに関わらず、最低限のつながりを維持しておくことが重要であり、その場面ですぐにきれない人がいることが問題であるという議論があった。素案では、こうした議論を受け、基本的なつながりを維持することと、団体同士の連携が活発化することを分けて整理している。

- ・「基本的なつながり」については、私の専門領域の中で、人と人との関係に関する社会科学的分野でのネットワーク論の中で「弱い紐帯」とも言われている。
- ・就職活動や仕事の関係など大事な人間関係として、日頃からお世話になっている人との関係だけではなく、何か別のこと、例えば問題が生じた際に、日頃は忘れていても、何かあった時に思いつくような「弱い紐帯」が有る人と無い人では、対処が違うという結果が研究でも出ている。素案では「弱い紐帯」を地域の基本的なつながりと表現してまとめさせていただいた。既に活動しているような強いつながりだけでなく、弱いつながりも含めて地域の活性化を考えることが必要であるとの考えである。
- ・まずは第1章の部分で、もう少し表現を強調したいところなど、細かい点も含めてご意見をいただきたい。本日は、ある程度素案ができているため、あまりまとめる必要はないと思う。色々と率直なご意見をいただきたい。

- 意見なし

座長

- ・キーワードに対する括弧のつけ方について、私達研究者の中では、書籍の場合は二重括弧、概念に関する場合は一重括弧で表現するが多い。そのような形で整理したほうが良いと思う。
- ・第1章3の(1)で「地域の絆が感じられる状態」という記載があるが、「地域の絆」と言ってしまうと非常に強い意味があるように思ってしまう。提言のタイトルで「地域の絆」を用いることは良いと思うが、本文中では、「基本的なつながり」という表現も使っているので、「地域の絆」という表現はあまり使わないほうが良いのではないかと。
- ・この部分での「地域の絆」とは、「基本的なつながりを感じられる状態」のことなのか、「顔の見えるつながり」などの表現もあるが、どのような意味合いで考えているか。

事務局

- ・第3回懇談会の資料の中で「顔の見えるつながり」についてお示ししたところ、「地域の絆」が大事というご意見が出ていたことから、この表現を用いている。顔の見えるつながりがあり、一人ひとりが安心感を持って日々の生活を送ることができれば良いという意味合いのものである。ご指摘のとおり「地域の絆」という表現は使わなくても別の表現に置き換えられると思う。

座長

- ・第1章3の(1)から(3)を整理したい。(3)は活動している団体が連携・協力できる状態、(2)は地域活動に参加することが自由にできるような状態だと思う。(1)は「顔の見えるつながり」ということがあり、これが、今回整理している「基本的なつながり」になると理解して良いと思う。
- ・地域コミュニティが活性化している状態について改めて整理すると、まずは「基本的なつながり」が維持されている状態になっていて、その上で、地域の活動が自由にできるような状態になっていて、更に、活動している団体同士が上手く連携している状態とい

う形で整理したほうが分かりやすいと思う。

R委員

- ・座長のご指摘について、例えば、「地域を構成する一員の自覚」などの表現を使うことで整理できるのではないかと思う。
- ・第1章2の(1)に「地域における基本的なつながりが希薄化することへの不安の解消」とあるが、区民は本当に不安に感じているのか。初めから不安も何も無いということ自体が問題だとすると、「地域と自分との関わり」とか「地域の構成員の一員であること」など、そのような認識を基本に持つことが非常に大事であるというメッセージも出せるのではないかと思う。

座長

- ・今のご意見は、地域のアイデンティティや帰属感、あるいは地域の一員として責任を自覚するという事だと思う。その部分を「2 地域コミュニティが求められる理由」と「3 地域コミュニティが活性化している状態」の中に入れて、整理するというご意見で良いか。

R委員

- ・その通りである。

座長

- ・地域の基本的なつながりの希薄化について、不安を感じているのはこの活性化を進めようとしている側の立場の人たちだと思う。そうしたことを気にせず楽しく過ごしている人もいるという意見は懇談会の中でも出ていた。
- ・地域の一員としての自覚や責任を持つことで、地域での生活がより豊かになるということをつけ加え、その上で、そうした機会もあるということ、整理し直す必要があると思う。
- ・本文への入れ方は難しいが、趣旨として、地域コミュニティが求められる理由の中で「地域の一員として責任を持って暮らしている」という暮らし方を見直す、あるいは考えてみる必要があるということ、活性化している状態の中では「基本的なつながり」がある中で、「地域への帰属感やアイデンティティを持って地域と自分とのつながりを自覚できるような豊かさを持っている」といった内容を追加するようなことになると思う。
- ・細かい表現については考える必要があるが、今のご意見を加味していきたい。

座長

- ・他に意見はあるか。
- 意見なし

座長

- ・第1章4の「地域ごとの実情を踏まえた活性化の必要性」について、懇談会の中でも、練馬区の場合は地域によって状況が多様であり、一律に考えるのではなく、地域ごとに

対応が必要だとの話だったと思う。もう少し議論があった部分を強調しても良いと思う。

- ・最後の段落に「必要に応じて意見交換を行う機会をつくることなどを検討し、各地域の実情を踏まえながら、進めていくことが重要です。」とあるが、地域ごとに多様であること、その多様な状況の中で大切なのは、地域の人達が自ら考えることが必要であるということ、そのために、考える機会を持つことや意見交換できる場をつくるという話だったと思う。最後の段落にもう少し付け加えたほうが良いと感じている。

- ・他に意見はあるか。

- 意見なし

座長

- ・第1章についてはこの程度で良いか。この章は、最初の頃の懇談会で、時間を掛けて議論した内容でもあり、大きな食い違いは無いと思う。先ほど出た意見を懇談会の意見として、本文中でもう少し強調するような形で加筆して欲しい。

事務局

- ・了解した。

座長

- ・次に第2章の「練馬区における地域コミュニティの現状と課題」について、ご意見をいただきたい。この部分は、懇談会でも、委員の皆さんから特にご意見を多くいただいたところである。内容として不足している部分、付け加える必要があることなど、ご意見をいただきたい。
- ・地域コミュニティの現状と課題として、まずは、町会・自治会、それ以外の地縁団体、テーマ別団体の現状と課題に関すること、次に、各地域活動団体の連携・協力の現状と課題に関すること、最後に、近隣関係の現状と課題に関することが盛り込まれた構成となっている。
- ・それぞれの地域活動団体に属している委員から見て、このような表現、内容で良いかご意見をいただきたい。
- ・まずは町会・自治会について、意見はあるか。

B委員

- ・私も様々な意見を述べたが、大体記載されているような主旨であったように思う。

座長

- ・町会・自治会も地域ごとに違いがあることは懇談会の議論にもあった。町会・自治会の規模、転入者の度合い、マンションや集合住宅のある度合い、居住年数の長い人が多く住んでいるかどうかなど、様々な違いがあり、一律には言えないということが議論されてきた。このあたりを補足したほうが良いと思う。
- ・第2章1の(2)では、「町会・自治会以外の地縁に基づいた地域活動団体」と一括して表現されている。懇談会の委員の中では、PTAなどの学校関係、商店会、老人クラブなどがこれに当たると思う。ご意見をいただきたい。

#### D委員

- ・教育委員会と関わりの中で活動される方は、30歳代から50歳代の方が中心である。その方々をどのように育て、町会・自治会の活動にまでつなげていくかという課題があると思う。人材を逃がさないで育て、どのように地域に根ざして活動してもらうかということが大切である。
- ・PTAの会長、小中学校のPTA連合会、保護者の団体などは、地域とつながる良い導入口だと思う。私もPTA会長に就いた時、背中にハンコを押された気分だった。こうした役に付くことで、地域から信頼が得られる。また、地域の中で目に見えてくる存在になる。こうした人材を、どのように育てていくかが重要である。その旨を付け加えて欲しい。

#### 座長

- ・第2章1の(2)の最初の部分で、具体的な団体を記載したほうが良いと思う。また、年層ごとに整理できると思う。子どもがいる若い世代は、小中学校のPTA活動などが地域への良い入り口となる。婦人会、老人クラブなど、町会・自治会の活動の後まで含めてつながっていく。そのあたりのイメージができるよう付け加えてもらいたい。
- ・その上で、学校を入り口として地域に関わりを持っていくというルートは、重要であるということ、そうした人材を町会・自治会、老人クラブなどにもつなげていくためにも、相互に連携することが大切であるということをつけ加えられると良いと思う。
- ・他に意見はあるか。

- 意見なし

#### 座長

- ・次に第2章1の(3)「テーマに基づいた地域活動団体」について、関係する委員の方々のご意見をいただきたい。

#### K委員

- ・NPOやボランティア団体は組織ができて日も浅く、町会・自治会や商店会のような大きな組織ではなく、まだ粒が小さい活動団体である。そういう意味では、素案に記載されているようなことが良く言われている。町会・自治会との連携など、地域とのつながりを持たせようとしているとは思いますが、NPOやボランティア団体は、あまり強い団体ではないことを、もう少し記述しても良いと思う。

#### 座長

- ・NPOやボランティア団体について、地域の中で定着しないことや認知度が低いことから、町会・自治会などと連携ができると良いが、なかなか連携が進まないということは、その通りと捉えて良いか。
- ・また、連携が進まないことだけだと、あまり意味がないような感じになってしまうので、むしろ、地域を意識せずに活動に参加する人が増えていること、NPOやボランティア団体も増えていることなど、テーマ別の活動への関心が高まっていることを強調したほ

うが良いと思う。

- ・現状としては、多様な活動が生まれてはいるが、定着しないという状態なのか。

L委員

- ・定着しないというよりも、元々そうした性格のものだと思う。また、素案では「地域の基本的なつながりの形成に取り組んでいる」と記載されているが、基本的には意識するテーマ、解決すべき課題があつての活動であり、そのための手段として、見守りや居場所づくりなど、地域のつながりを意識した活動が欠かせないものになっているということだと思う。地域のつながりをつくること自体が目的ではない。
- ・NPOやボランティア団体は、大小様々な規模の団体があると思うが、規模が小さいからと言って、必ずしも力が弱い団体ということではないと思う。

座長

- ・他に意見はあるか。

M委員

- ・私の住んでいる地域を見ると、NPOやボランティアは、町会に加わって活動できない人が一つの目的を持って活動しているのが現状であると思う。一方、町会も、NPOやボランティア活動をしている人達を、あまり入れたくないという感じである。
- ・D委員のご発言の通り、PTAは本当に人材の宝庫だと思う。PTA活動から次の段階にどのようにつなげていくかが重要だと思う。一時「おやじの会」というのが流行っていたが、東京都のレポートなどを読むと、最近立ち枯れになっているということが書かれていた。やはり、現役の父親だけを対象としていると継続は難しいと思う。子どもが卒業しても、続けて行けるようにすると少しはつながっていくと思う。

座長

- ・一律にはいかないとは思いますが、町会・自治会は「基本的なつながり」を維持することに努力していくほうが性に合っているように思う。その対極にあるのが、NPOやボランティア団体であり、意欲を持った人が自由に活動するというものだと思う。PTAなどは、その中間にあるもので、子どもがいるから仕方なく参加する人や、参加して見たら面白いから続けているという人もいる。
- ・PTAなどの活動を経た後に、町会・自治会などの日頃のつながりの中で、地域とのつながりを維持していこうとする人もいれば、もっと積極的に活動をしていこうとする人もいる。それがどこかでつながっていけば良いと思う。
- ・緩やかなつながりの中で親睦を深めている活動と、意欲を持って積極的に取り組んでいる活動には、それぞれの役割があり、両方が重要であることから、どちらの活動を選ぶかは一人ひとりが決めれば良いことである。そのお互いの活動がつながっていれば良いことだと思う。
- ・町会・自治会は、地域の「基本的なつながり」を維持するために活動していることや場合によってはそれ以上の活動をすることもあるということ、PTAなどの地縁の団体は、

地域を基盤にしながらも、それぞれの目的に対して創意工夫をしながら活動することもあるということ、NPOやボランティア団体は、特定目的意識を持って活動していること、その中で「基本的なつながり」を意識して活動している団体も出てきているということ。このように整理できると第3章の方策へもつながると思う。

- ・このような整理で良いか。

#### B委員

- ・町会・自治会は、基本的には地域の人達のコミュニケーションを図ることを中心に活動している。その中で、学校との連携が出てくることから、PTAとの関わりも出てくる。同様に、民生委員や青少年育成地区委員会など、様々な団体との関わりが出てくる。ただ、NPOと町会とのつながりは本当に無い。両者とも声を掛けないのが現状ではないかと思う。地区祭になるとNPOも少しは入ってくるが、通常の町会・自治会の活動は地域の団体との付き合いが主なものである。

#### D委員

- ・私達は、中村南スポーツ交流センターの開設を契機に、豊玉地区と中村地区の各学校のPTA会長の経験者20名を集めて「クラブブラッツ」という団体を立ち上げた。今は、NPO法人とするための取り組みを進めている。構成員の共通の目的はスポーツであり、スポーツ好きの集まりである。地域の子供達のため、自分達のため、地域にスポーツ施設ができたので、それを思いっきり使おうという趣旨で集まっている。
- ・大事なのは、NPOとの関わり方だと思う。私達の団体のテーマはスポーツである。スポーツを切り口にしてもらえれば、町会・自治会の活動へも人を出すことができる。NPOだから駄目ということではなく、何のNPOかが重要である。様々なNPOがあるので、その情報も大事であるが、NPOの特性を町会・自治会の代表などに理解してもらうことで、連携関係ができるように思う。

#### B委員

- ・学校単位で活動している子どものスポーツ団体は、町会と関係を持っており、支援もしている。

#### C委員

- ・町会・自治会は地域の全体を見ている。様々な形で色々な団体へ協力はできるが、特定の団体と親しくなるというものではないように思う。それぞれの団体が何か事業をやる際に、町会・自治会で回覧を回す程度の関係だと思う。
- ・PTAの方に子どもが卒業したから、町会の役員を引き受けてもらえるかという、難しいと思う。民生委員などの活動へは、友達を介して関わっていく場合はあると思う。
- ・町会・自治会と他の団体とは五分の関係、平らな関係であり、NPOだからとか、ボランティア団体だからとか、あまり難しく考える必要はないと思う。
- ・町会・自治会としては、どのような団体からの話でも受ける。お手伝いはできるかもしれないが、人を出すなどの協力までは難しい部分もあると思う。一つの団体と協力する

と全ての団体と協力することにもなってしまう。

- ・商店会に関しては、地域の若い方々は商店街に行くと、何か話をしたりすることが厄介だから、コンビニや大型店に行っているのだと思う。こういう流れの中で、商店も活気が無くなってきていると思う。
- ・できるだけ人のつながりを避けていながら、一方で町会・自治会の話になると、人のつながりの話になって、みんな悩んでいるので、まだ大丈夫だと感じている。

座長

- ・相互に役割を理解して、協力の道を得ていくという話になると思う。基本的なつながりを重視する町会・自治会と、個人が色々な工夫をして活動するNPOやボランティア団体、その中間にある地域活動団体、それぞれの役割を明らかにしたうえで、どのように連携・協力するかということにつながると思う。
- ・PTAやNPOは、町会・自治会のように町全体のことや、あらゆる物事に対応するとは無理である。また、町会・自治会にとっても、全ての団体と協力することは難しいということである。どのように関わるかということが大事になると思う。例えば、スポーツ団体があるなら、スポーツのイベントは任せるとか、町の中でやってもらっているから助成金などで支援をするといった関係とか、あるいは広報や連絡のお手伝いをするという考え方もある。この他にも、町会のニュースに載ると団体の信頼度が増すということもある。その辺りの工夫、役割の違い、お互いの活動が難しくならないような範囲での関わり方の工夫が必要であるというような旨が加わると良いと思う。
- ・もう一つ、気楽に町会・自治会に頼み事ができなかったり、町会・自治会が個々のNPOと親しく付き合うことがしづらかったりすることは、単に情報が無いだけなのか、何が障害になっているのか。何か同じように活動してもらわないと困るといったことで軋轢が出てしまうということか。提言の中で上手く整理して、具体的な関わりを書けると良いが、各委員の意見を聞いていると難しいような気もしている。
- ・第3章に関わる話も出てきているので、第3章に進みたい。その後、まとめて意見をいただきたい。

座長

- ・第3章は具体的な取り組みのことである。地域の基本的なつながりを形成するための取り組み、地域活動への参加を支援する取り組み、地域活動団体同士が連携を円滑にするための取り組みという構成になっている。これまでの議論で不足していること、アイデアなども含めてご意見をいただきたい。

E委員

- ・先ほどの話とも関係するが、PTAなどの各団体の活動、NPO団体の活動、町会・自治会の活動などを無理に結び付けなくても良いと思う。私は地区区民館の運営委員会に所属しており、地区区民館でイベントをする際には、地区内の3つの町会にご協力をいただいている。また、広報でも様々な情報を流してもらっている。このように、それぞ

れの団体を無理に誰かが結び付けなくても、色々な活動をしている情報が、広く区民に行き渡れば、一人ひとりが行動することにもつながると思う。

- ・先日、地区区民館でワインを用意してジャズのコンサートを開催した。今まで地域や地区区民館に出て来られなかったような熟年のご夫婦なども来館された。色々な活動をしているところに出てくることが個人単位での活性化でもあると思う。結び付けることに力を注ぐよりも、情報をどのように発信するか、情報の発信の仕方でも活性化していくのではないかと思う。

座長

- ・今のご意見は、無理に結び付けるよりも個々の団体がいきいきと活動できるような環境を整えたり、いきいきと活動していることを情報として流した方が良いのではないかということだと思う。その場合、町会やNPOなどの情報が一括で集約され、全体を見渡せるような仕組みの話につながってくると思う。
- ・一步踏み込んだ議論にはなるが、町会・自治会、NPOなどが活動して、その成果をお互いが交換するような場や拠点があると良いのか、そうした話はまだ厳しいのか、率直なご意見を伺いたい。

B委員

- ・どこかでまとめるとなると負担になるのは事実だと思う。町会・自治会は、敬老館や地区区民館とは深い関係があるので、それに関する情報は掲示板や回覧板を通じて地域に流している。その他にも、地域にとって必要だと思われる情報は町会・自治会に入ってくる。それを掲示板や回覧板で流している。NPOなどの情報も含めて様々な情報を、どこかでまとめて発信できれば良いと思うが、それを行うことで生じる負担への懸念もあるため、上手く連携しながら情報を流すことができれば良いと思う。

座長

- ・他の自治体では、町会・自治会とNPO団体の懇談の場、交流の場を設けているところもある。NPOセンターなどがあり、そこでNPOが束ねられている場合に割と実現できているように思う。練馬区の場合は、そのような組織はあるか。

L委員

- ・練馬区の場合、NPO活動支援センターという組織があるが、ネットワーク方式ということで、運営団体の事務所などを使って、その団体の特色を活かして事業を行っている。

座長

- ・現状でも町会・自治会にも何らかのまとまりがある。拠点をつくるといった場合、既にそれぞれにある中で、新たな拠点を設置しても、多くの団体が上手く利用できるかどうかはわからない。拠点について、提言の中では団体を束ねる必要があるくらいのことしか言えないかもしれない。拠点をつくるといっても、それぞれを束ねている人たちが一堂に介して懇談する場を設けること、あるいはそれぞれの情報をまとめて一元化していくといった工夫が必要ということになるのではないか。

- ・第3章2の(3)で拠点をつくると漠然と言っても、既にそれぞれの団体の拠点というものがあるため、それを無視して新たに拠点をつくってもあまり効果がないと思う。それぞれが各自の拠点を持っているので、それらが連携できる場をつくるといった表現の方がより良いと思う。

事務局

- ・区としても活動の場を各団体が持っていることは理解している。素案で示している拠点とは、あくまで情報提供や相談窓口があるような支援の拠点であって活動の場ではないというイメージである。懇談会の中では、一律に会議体をつくるようなことは負担が大きいという意見もあったため、必要に応じて一堂に集まり、会議ぐらいができるような場というのは必要であると考えている。
- ・NPO活動支援センターについて、ネットワーク方式で運営している。これは3つの団体に運営しているものであるが、個別にNPOの相談に応じているものであり、一律にNPOを束ねているものではないことをご理解いただきたい。

座長

- ・第3章の2の前段で現状について触れておいたほうが良いと思う。学校関係や他の団体などそれぞれに拠点施設があることを現状として記載しておき、そうした拠点を束ねるということではなく、それぞれの活動を集約したり、必要に応じて集まって交流できるような場が必要との書き方のほうが良いと思う。提言としてはそのように分かりやすく記載したほうが良いと思う。

K委員

- ・NPO活動支援センターは、NPOを代表しているわけではなく、各NPOをサポートするだけの組織である。町会連合会と対等に話をする場合、NPOを代表する組織がないという実情もある。それも踏まえてコミュニティの中でのどのような役割が可能か考えて行く必要があると思う。

座長

- ・全部の団体を支援するのか、NPO活動支援センターとの関係性も整理しながら、それぞれ役割分担をしながら支援するのは難しいところであるが、練馬区の現状として、各団体の持つ拠点の状況、役割などを踏まえた上で、拠点について、それぞれの団体に対しての支援しつつ、全体としても交流ができるような場が必要だということだと思う。
- ・それぞれの拠点で、連携や支援をしている現状もあると思う。提言では、それらを全部踏まえたうえで、支援や交流する場が必要であるという表現になると思う。
- ・他に意見はあるか。

C委員

- ・地域にスイミングプールがあり、NPOも立ち上がり、区も補助金を出して活動をしている。以前、東京都に何かを申請するに当たり、地域の町会長を集めて話をしていた。町会としては、そうしたことには協力はしづらいと思う。また、そうしたことがあるか

ら、NPOを敬遠するところがあると思う。町会・自治会だからと言って何でも協力しろと言われても、できる事とできない事がある。特定の団体に肩入れするのではなく、町会・自治会はどの団体とも仲良くしたいし、広報などでは、町会・自治会を利用して欲しいと思っている。回覧板は無償なので、地域に必要な情報であれば、どの町会・自治会でも引き受けてくれると思う。町会・自治会の敷居は、高く無いと思う。

座長

- ・町会長を全部集めて、何かをしようとするNPOはあまり多くないと思う。かなり例外的な話だと思う。
- ・他に意見はあるか。

R委員

- ・町会の加入者が4割前後でなかなか伸びない中で、ゆるやかなつながりを大事にしたいということは提言の方向性として、懇談会の場でも了解されていることだと思う。
- ・その一方で、NPOについて、おそらく若者は、どちらかと言うと志を中心とした使命感の強い、スピード感のあるNPOのような組織に入る方が多いように思う。若い人達が組織とか他人との連携のことについて考えた場合、志を優先にしていこうという流れはあると思う。
- ・今回の提言の中では、緩やかな基本的なつながりの再認識とともに、勢いと志を基本とした動きが挙げられると思う。勢いがあるが故に既存の団体などとの軋轢が生じることももあるが、あるまとまった数、若い世代の人たちが集まる志を中心とした動きも蔑ろにできないというのは一つの流れだと思う。
- ・区という器の中で、緩やかなつながりを大事に育てることと同時に、勢いのある志を中心とした団体の流れについても、提言の中でも謳っていくことは大事だと思う。そうした組織の中で、それぞれの人がお互いを認識し、折り合いをつけ、双方が自己実現をしていく、こうしたことが結果として、地域の活性化につながっていくものだと思う。地域の活性化は、多様な組織と多層の動きの中で見えてくるものだと思う。取り組みの方向性の現状認識として盛り込んでもらいたい。

座長

- ・今のご発言の内容は、最後のまとめのようところで記載してはどうかと思う。3つの提言をした中で、それら全部を踏まえてそれぞれの持ち味があり、それぞれに引きつける人がいて、お互いが上手く尊重し合えるような連携・協力の関係を模索し、結果的に様々な団体の多様な活動が維持されることで地域全体が活性化するということだと思う。また、こうした状況を目指すに当たり、区として支援をして欲しいという内容がまとめとして入ると、今回の提言の全体像が改めて最後に確認できるようになると思う。
- ・一通り検討をした。全体を通じて何か意見はあるか。

- 意見なし

座長

- ・区の骨子の段階では、拠点づくりやコーディネーターの確保という話があった。今まで議論された地域の現状を踏まえると、誰かがつなげば良いとか、拠点をつくれれば良いといった単純な話にはならないようである。全体が交流し、話し合うような場をつくるということや、各団体の連携を促進するために仲介役のような人が必要ということは提言の課題として挙げられるとは思いますが、安易に拠点や仲介役を設ければ良いといった提言の内容にはならないことは確認しておきたい。

産業振興部長

- ・区が想定している拠点の役割は大きく三点あると考えている。一点目は、この懇談会でも議論になった情報を集約して地域の方に発信することができる場、二点目は、活動している町会・自治会やPTA、NPOなどの団体に対して、個別に支援することができる場、三点目は、団体同士の連携、横のつながりが生まれる交流の場ということ想定している。
- ・必ずしも連携だけのための拠点だけでなく、情報の必要性、個別の活動への支援も含めて区内に何か所だけあるのではなく、地域ごとにあると良いのではないかと想定している。

座長

- ・提言の中には、情報が集まること、個別の活動への支援の場に関する事、可能ならば連携していくということができたほうが良いということは、要素としては入っている。ただし、連携が負担になることに対して大分意見として挙がっていた。支援する立場の人が情報を集め、発信したほうが良いし、つながることへの負担も、支援する側でしていくことが大事になるのだと思う。
- ・どこまで書き込むかはあると思うが、むしろ、各団体の負担にならないように、支援する側の人、仲介役や拠点にいる人がしっかりと支援することが大事だと思う。

産業振興部長

- ・座長のご発言の通りだと思う。例えば、地域で情報を集めたり、あるいは連携していくという時に、ある団体に音頭をとってもらえるような願いは、現状では難しいと考えている。区としては、情報を集めたり、仲介ができる拠点、人の支援も含めての拠点が重要だと考えている。最後のまとめのところで、人の労力も含めての支援の必要性についても触れていただければと考えている。

座長

- ・他に意見はあるか。
- 意見なし
- ・ご意見が無いようなので、今後の進め方についての話をします。今後は、本日の検討結果を踏まえて事務局が修正した提言案を委員全員に確認していただく。そのうえで、意見が出されれば、私が責任を持って修正し、最終的に私と事務局で調整をし、提言としてまとめていきたい。

- 異議なし

・最後に挨拶をさせていただく。

・今回、委員の皆様から活発にご意見を出していただいた。私はあまり考える必要がなく、それぞれの意見をまとめさせていただいただけだと思う。そういう意味で座長を快適に努めさせていただいた。御礼を申し上げます。

事務局

・提言については、本日の懇談会の中で座長にまとめていただいた内容に基づき、修正する。

・今後のスケジュールとしては、修正したものを各委員に確認をしていただき、11月中に最終的な提言をまとめていきたい。その後、提言を踏まえ、庁内の検討組織で、具体的な活性化プログラムの内容を検討し、来年3月を目途に活性化プログラムの素案を作成していく。また、活性化プログラムの素案について、幅広く区民の皆さまからご意見をいただき、来年の5月にはプログラムを策定していきたいと考えている。その中で同時にモデル地域を選定し、手始めにモデル地域でプログラムを実施していく。モデル地域での半年から1年くらいの取り組みを検証した後、順次各地域に広げていきたいと考えている。

・本懇談会は、本年3月に設置し、東日本大震災の影響により第1回目の懇談会が延期されるということもあった。ここまで8ヶ月間ありがとうございました。毎回、活発なご議論をいただき、私達も勉強させていただいたところである。最後に、事務局を代表して、区民生活事業本部長より挨拶をさせていただく。

区民生活事業本部長

・第7回の懇談会の終わりにあたりご挨拶を申し上げます。3月の下旬に第1回の懇談会を開催する予定していたが、3月11日の発災を受け、1ヵ月遅れの4月から開催した。非常に短期間の中、都合を付けてご出席をいただき、活発なご議論をいただいた。ご議論の中でも、地域の多様性、団体ごとの状況の違いなど、様々な面をご指摘いただき、地域コミュニティの活性化というのは非常に難しいものがあることが認識できた。そうした中、地域の基本的なつながり、地域の一員としての帰属意識が大事であるということは、本日のご議論でも一致したものと思っている。また、少子高齢化の中、それぞれの団体の活動が持続できるような仕組みが大事であることを、区としても真剣に考えている次第である。それら二つを実現するために、地域の中に区が入り、地域の方々とご相談しながら一番よい方法を見つけていきたいと考えている。区としては、地域活動団体の皆さまに頼っていただけるような体制をつくりたいと考えている。提言の中にも、区の役割につながる部分も入れた形でまとめていただきたい。今後は、提言を受けて具体的なプログラムを作成していくことになるが、引き続きそれぞれの局面ごとにお力沿をお願いしたい。

この度は、本当にありがとうございました。

座長

- ・これまで本当にありがとうございました。
- ・以上で第7回懇談会を終了する。